

# 出向く宮農レポート

～更なるレベルアップを目指して～



北部宮農センター長久手地区担当  
大脇 進

令和3年度に女性のアグリスクール中級を卒業、現在は産直友の会として活動している大川野乃子さんの圃場を訪問しました。

大川さんはアグリスクール受講中に約2アールの圃場で栽培を開始し、昨年秋からは新たに長久手市内で約5アールの圃場を拡大して野菜の作付けを行っています。

この日は、新しく栽培を開始した長久手市内の圃場を訪問し、生育の確認、今後の作付け提案をしました。

大川さんの圃場では、ハウレンソウが収穫時期を迎えていました。ハウレンソウ栽培で注意が必要なことは、アブラムシの被害です。ほうれん草の葉の汁が吸われることで、ウイルス病に感染する恐れがあります。防除が必要な場合は、アクタラ顆粒水溶剤やスタークル顆粒水和剤等、アブラムシに登録のある農薬を勧めていますが、今回は心配されたアブラムシの被害もないことから、順次収穫を行い出荷していただくよう案内をしました。今後は夏野菜の栽培としてズッキーニ等の作付けを依頼し、産直コーナーの品揃え拡充を目指します。また、メロン、スイカ等つる性の野菜栽培に挑戦したいと話しています。

休日にご主人も栽培を手伝い、夫婦仲良く野菜づくりに励んでいます。4月からは長久手産直友の会の役員として、運営にも参加されており、大川さんの更なる活躍を期待しながら今後も引き続き訪問し、情報提供・情報収集を行います。

## アブラムシに登録のある農薬紹介



### アクタラ顆粒水和剤

- 希釈倍数:2000倍
- 使用方法:散布
- 散布液量:100~300ℓ/10a
- チアメトキサムを含む農薬の総使用回数:3回以内(但し種子への処理及びは種時の作条混和は合計1回以内、散布は2回以内)



### スタークル顆粒水溶剤

- 希釈倍数:3000倍
- 使用方法:散布
- 散布液量:100~300ℓ/10a
- ジノテフランを含む農薬の総使用回数:3回以内(は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)

※使用に際しては製品ラベルの記載内容に従ってご使用ください。  
ハウレンソウは秋冬野菜に多いアブラナ科ではなくヒユ科の野菜であるため登録農薬が少なく、注意が必要です。

## 大川さんにインタビューしてみました!!

Q アグリスクールに参加してみてどうでしたか?

A プランターなどで家庭菜園をしている中で、アグリスクールの募集を見て楽しそうだったので参加しました。自ら野菜を栽培し、出荷することがとても楽しくて、どんどん農業にはまっていきました。農薬を散布したり、農業機械を使用するなど、自分の力ではなかなかできないことを実践を通じて学ぶことができたので、今の栽培に活かすことができています。アグリスクールに参加しなかったら、農地を借りて自分で農業を始めるまでなかなか踏み出せなかったと思います。

Q 今後の目標は?

A まだ農業をはじめて間もないが、栽培品目を増やしてレベルアップしていきたいです。

